

暦の上では早くも春到来ですが、寒暖の差が激しい日々が続いております。まずは健康第一で、雪消えの季節を迎えたいものです。

☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆ ☆

◆武器をアートに Arms into Art

今の日本では我々が日常生活で武器を目にすることはありません。機関銃、ライフル、拳銃、弾薬、砲弾を目の当たりにしたら、たじろいでしまうでしょう。しかし、世界の中には今現在も銃弾が飛び交い、大砲の轟音が響き渡る紛争地域が存在します。アフリカのモザンビークも、かつてはそんな地域の一つでした。モザンビークの人々は独立を果たした後に、長期にわたり内戦で苦しみ、アフリ



左から、ギター演奏者（大・小）、ティンビラ奏者、笛を吹く人

カで初めて「子ども兵」を生んだ国だともいわれましたが、内戦終了後の武装解除で、「銃を鋏に」というプロジェクトが政府・警察・軍隊と協力しながら市民主体で進められました。回収された武器はほとんどが廃棄され、その一部が現地のアーティストにより「武器アート」に生まれ変わります。

今回の「武器をアートに Arms into Art」は長年現地でプロジェクトをサポートしてきた「えひめグローバルネットワーク」の協力のもと、モザンビークでアートに生まれ変わった作品を展示するものです。新潟大学での開催に続き、国際大学と池田記念美術館の主催、南魚沼市の後援で行う、まさに平和を願う特別展示となります。（岡西英孝）

◆残雪と川の織り成す風景

4月から光風会会員の高橋和義さんの個展を開催いたします。

高橋さんは昭和14年、十日町生まれ。50歳で油絵を始めてから28年になります。日展の入選6回、光風会展では光風奨励賞を受賞するなど、多くの公募展で活躍されています。

主なテーマは「雪解けの川」です。高柳（柏崎市）や栃尾（長岡市）の半蔵金など県内各地の川が流れる風景のほか、山形県で写生した作品もあります。大きく蛇行する川の流れを、俯瞰した構図でダイナミックに描いており、川と残雪の山々の対比が魅力的な風景画です。色彩も工夫されていて、黄色を基調にした時期から青、緑と変わっています。今回の展覧会では2000年以降のそれぞ



「雪解け川」長岡市半蔵金 2015年 F100

れの時期ごとに作品を選んでいただきました。ちょうど残雪の季節です。雪と川と山々が織り成す風景をぜひご覧ください。（広田かおり）

◆高野山金剛峯寺を訪ねて

昨年、高野山は弘法大師空海が密教の道場を開いてから千二百年目の節目の年でした。日本の書道史上最高の人物「空海」のもとを一度は訪れてみたい、という夫の永年の強い想いをようやく叶えることができました。

樹齢千年に及ぶ杉木立がそびえる参道には、戦国武将や大名や文人、そして現代を生き抜いた著名人のお墓や供養塔が多数あります。その中には夫が書道界に入るきっかけとなった先生の書碑があり、今回の旅の目的の一つでもありました。

今でも空海が人々のために救いの手を差し伸べていらっしやる弘法大師御廟のある奥之院は幽玄で神秘的で、しばし身動きがでなくなるほどの感動を覚えました。高野山は歴史や文化、自然などが凝縮された素晴らしい聖地でした。今度はゆっくりと時間をかけて訪れたいと思っています。（佐藤良子）

◆真冬のイベント

2月の始め、雪祭りがありました。今年は本当に雪が少なく、私の地区では『原点に返る雪祭り』と称し、地元密着の地元住民のためのお祭りを行いました。雪の滑り台を造る予定でしたが、小雪のため中止になり、テントでお酒や焼き鳥、お餅などを振る舞うだけとなりました。少し離れてしまった本会場に行くことのできないお年寄りの方が「何年ぶりに雪祭りに来ました。ありがとう」と声をかけてくださり、少し嬉しくなりました。

次の日は見納めとなる娘の和太鼓の演奏。雪の降りしきる中、力強くそして楽しそうに和太鼓を叩く娘を見ているとやはり涙が……。和太鼓が好きで、4年生から課外に入り3年間、娘は悔いはないと言っていました。課外最後に挨拶をしたとき、涙が出そうになったそうです。今度は中学でお囃子ではなく御実城太鼓をやりたいそうです。（山口加奈子）

◆サンゲツミッカが近づいて

休日の午後のこと。朝から雪が降り続けているので出かける気にならず、炬燵に入っただよんのびしながら、角川学芸出版発行の俳句歳時記をめくっていました。付録として行事一覧という頁があり、何気なく3月3日の箇所を見たところ「浦佐毘沙門堂裸押合大祭 新潟県南魚沼市」とありました。

そろっと、サンゲツミッカです。この日が近づくと、また一つ歳をとってしまったかと嘆いてしまう小生なのですが、多聞青年団の勇姿にはいつも感服するばかりです。今冬は雪が少ないので、普光寺の境内にはダンブカーで雪を運んでくるのでしようね。準備が大変です。美術館では同じサンゲツミッカから霜鳥健二さんの彫刻展と、武器をアートに作り変えた特別展を開催していますので、ぜひお立ち寄りください。（館長 高橋良一）

## 回顧展開催にあたって

高橋和義

池田記念美術館様のご好意により、この度回顧展を開くことができるのは、喜びに堪えません。ここから感謝申し上げます。

中学生のころから、趣味は絵画にしようと思いつき、実際に県展、光風会展などの公募展に出品を始めたのは50歳の年からでした。テーマを積雪地帯の雪景色にしたのは、豪雪地帯の生まれだからにほかなりません。構図には、雪山、雪原、蛇行した川を取り入れようと毎冬、場所探しを繰り返しており、早くも今年で28年になります。

雪の色調も黄色から青、緑と変え、現在も試行錯誤を繰り返しておりますが、このテーマの奥の深さと自然の景観には魅了され続けております。今後も、この自然空間のイメージの彼方に豪雪地帯の原風景を、自分の色調とフォルムにより確かな姿として発見し、さらに追求して行きたいと思っております。

今回の回顧展の作品は、終活の一環として2000年代から今日にいたる主な流れをまとめたものであり、制作を続けることが許されるなら、今後の新たな仕事に踏み出すためのステップになればと考えております。

(新潟市在住)



「雪解け川」三条市早水  
2009年 F100

## 池田記念美術館 展覧会&amp;イベント情報

## ■冬季特別展示—後藤はつの 112歳の絵画展—

◎2階特別展示室 ◎期間：3月21日(月・振休)まで

妙高・赤倉温泉出身、81歳から99歳まで100号の絵を描き続けた後藤はつのさんは、112歳のスーパーレディです。展覧会では、作品22点を特別展示中です。お見逃しなく！

## ■霜鳥健二 彫刻展—鉄—

◎1階企画展示室・多目的ホール ◎期間：3月3日(木)～4月4日(月)

1955年、南魚沼市生まれ。82年に新潟県展で「県展賞」を受賞。以後、全国各地の彫刻展に鉄を素材にした作品を発表している霜鳥健二氏の作品展です。約30点を展示します。

■作品解説会 3月19日(土) 14:00～

## ■特別展示—武器をアートに Arms into Art—

◎2階特別展示コーナー ◎期間：3月3日(木)～3月29日(火)

長く内戦が続いたモザンビークでは1992年の内戦終了後、「武器を鉄に」のプロジェクトのもと、武装解除された武器が回収・解体され、アーティストの手によって多くの作品に生まれ変わりました。今回、国際大学との共催で15点の作品を特別展示いたします。

■ギャラリートーク 3月12日(土) 14:00～15:00

講師：田村 優さん(新潟大学現代社会文化研究科博士前期課程、南魚沼市・旧塩沢町出身)

## ■高橋和義 回顧展—春待つ残雪の里—

◎1階企画展示室・2階海外美術展示室 ◎期間：4月8日(金)～4月25日(月)

十日町市出身、光風会会員の高橋和義氏は、雪解けの残雪風景を描き続けています。今回の回顧展では、100号の油彩画26点を中心に計56点の作品を展示し、画業を振り返ります。

■ギャラリートーク 4月9日(土) 14:00～

■常設展 「日本美術展示室」ラゲザ・玉、會津八一、星襄一、良寛などを展示中です。「小泉八雲展示室」小泉家秘蔵の直筆原稿や公文書、家族との書簡などを紹介します。「スポーツ文化展示室」野球、相撲、オリンピックを中心としたコレクションです。

## ◎他のイベント情報

■池田音楽クラブ「音を楽しむ集い」※入場無料です

3月27日(日) 11:30～ 月例音楽会(ピアノ・フルート・ギター) 4月3日(日) 13:30～ フォークソングの日

■BBMスポーツカードショー 2016春の陣 in 浦佐 4月2日(土) 10:00～16:00 ※2016 1stバージョン先行発売



霜鳥健二氏の作品  
上：「原風景—08」2008年  
下：「1.6mm」2014年

池田記念美術館 南魚沼市浦佐5493-3 (八色の森公園内)  
TEL 025-780-4080 / FAX 025-777-3815  
【開館時間】9:00～17:00 (入館受付は16:30まで)  
【入館料】一般 500円 高校生以下無料  
【ホームページ】http://www.ikedart.jp

【3月の休館日】  
※水曜日(2日、9日、16日、23日、30日)  
※1日(火)は展示替えのため休館します。